

(2,000円)

特許庁長官 殿

1. 発明の名称

水タバコフィルタ

2. 発明者

住所

特許出口人に同じ

氏名

3. 特許出願人

郵便番号 170

住所

東京都中央区京橋 3-67-11

氏名

4. 代理人

郵便番号 530

住所

大阪市北区東島上2丁目39番地

(毎日産業ビル内)

電話 大阪(06)344-4343(代表)

氏名

(6176) 弁護士 石田 長七

5. 添付書類の目録

- | | |
|----------|-----|
| (1) 明細書 | 1 通 |
| (2) 図面 | 1 通 |
| (3) 願書副本 | 1 通 |
| (4) 委任状 | 1 通 |

① 日本国特許庁

公開特許公報

① 特開昭 48-53671

④ 公開日 昭48.(1973) 7. 28

② 特願昭 46-88533

② 出願日 昭46.(1971) 11. 6

審査請求 未請求 (全3頁)

庁内整理番号

② 日本分類

6129 21
7235 49130 A06
38 C11

明 細 書

1. 発明の名称

水タバコフィルタ

2. 特許請求の範囲

筒状体の内部に吸煙状物を挿入し、該吸煙状物に0.01乃至1%のジアルキルアミノ2-ブテニールスルホネートとアルリルアミドとの混合物を主剤とするような殺菌剤の水溶液を含浸せしめ、吸煙状物を挿入せる筒状体の一方の開口端部に円筒状拔止材を取付して上記吸煙状物の脱落を防止するとともに該筒状体の他方の端部に吸口部を形成し、筒状体開口端部の円筒状拔止材にタバコの一筋を嵌入するようにして成ることを特徴とする水タバコフィルタ。

3. 発明の詳細な説明

本発明は筒状体の内部に吸煙状物を挿入し、該吸煙状物に0.01乃至1%のジアルキルアミノ2-ブテニールスルホネートとアルリルアミドとの混合物を主剤とするような殺菌剤の水溶液を含

浸せしめ、吸煙状物を挿入せる筒状体の一方の開口端部に円筒状拔止材を取付して上記吸煙状物の脱落を防止するとともに該筒状体の他方の端部に吸口部を形成し、筒状体開口端部の円筒状拔止材にタバコの一筋を嵌入するようにして成ることを特徴とする水タバコフィルタに係るものであつて、その目的とするところはニコチンやタールのような有害成分を完全に除去して、タバコを円やかな味覚にて喫煙することができる水タバコフィルタを提供するにある。

本発明の一実施例を図により詳述する。(1)は筒状体であつて高可塑性合成樹脂であつてもよくまたアルミ製であつてもよいが、いわゆるパイプ形を有しており、該筒状体(1)の開口端部(3)より吸煙状物(2)を筒状体(1)の内部空所(6)に挿入するとともに該開口端部(3)にアルミニウム製の円筒状拔止材(4)を取付して吸煙状物(2)が筒状体(1)の内部空所(6)より脱落するのを防止してある。一方、筒状体(1)の他方の端部には中心に細管(7)を有する吸口部(5)が形成せられ、該細管(7)の一端は吸口部(5)端面

(5a)にて開口するとともに他端は内部空所(8)に達して吸煙状物(2)内を通過するタバコの煙が吸口部(5)端面に導かれるようにしてあり、内部空所(8)の底部たる細管(7)周囲に細管(7)と同心円状に深溝(8)を設け、吸煙状物(2)に含浸せるジアルケルアミノ2-ブテニールスルホネートとアルリルアミドとの混合物を主剤とする吸染剤の0.01g乃至1gの水溶液の余分量が、細管(7)より吸口部(5)に流れ込む前に深溝(8)に溜るようになっている。なお図中(4)は吸煙状物(2)を包んだ紙筒である。

上述の水タバコフィルタは図2図に示す如く、10本程度の水タバコフィルタを紙筒(9)上に吸着し、プラスチックフィルム(10)にて一体に包み込んでパッケージするようにしてあるが、さらに吸煙状物(2)の吸染剤水溶液が蒸発するのを防止するため、吸口部(5)の端面(5a)を覆うように筒状吸口キャップ(11)を取付するとともに、開口端部(8)断面円状の筒状キャップ(12)を嵌入して内部空所と外気とを遮断するようにしてあり、喫煙時には取外して使用するものである。

する強力な吸染無印化作用を有する水タバコフィルタを得ることができたものであつて、筒状体上に吸煙状物を挿入するようにしたので、製造が極めて容易で安価となり、吸煙状物の脱落防止のために一方の開口端部に取付せる円筒状拔止材にタバコを嵌入するようにしたので、吸煙状物内の吸染剤水溶液にてタバコが濡れるようなことがなくなり、喫煙の際発生するニコチン、タール等の有害成分が吸染されて安定化し、吸煙状物内に多量に残留させられるとともに例え人体内に吸入しても有害作用を起すことがなくなり、従来のフィルタのみによる場合に比べて有害成分の超過率が飛躍的に向上し有害成分がほとんど除去されるという利点を有する水タバコフィルタを提供したのである。ここで吸染剤溶液の濃度は0.01g乃至1gであるが、0.01未満の値では有害成分の吸染能力が小さく実用に供さないという理由で下限を限定したものであり、1gを超える値は不経済であるという理由で上限を限定したものである。

4 図面の簡単な説明

ジアルケルアミノ2-ブテニールスルホネートとアルリルアミドとの混合物を主剤とする吸染剤は強力な吸染能力を有するものであつて、本発明はかかる吸染剤の吸染能力を利用して、タバコ中のニコチンやタール等を除去することのできる水タバコフィルタを得ようとするものである。

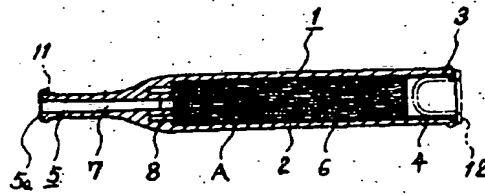
いまタバコの一端を筒状体(1)開口端部(2)の円筒状拔止材(4)に嵌入して燃焼し、タバコを喫煙すればタバコの細み葉の燃焼によつて発生したニコチン、タール等の有害成分が吸煙状物(2)内を通過する際、吸煙状物(2)に含浸せる吸染剤がタールやニコチンの微粒子を吸染包圍して安定化乃至無毒化し、その大部分を吸煙状物(2)内に残留せしめるとともに人体内に吸入されても害を起さないようにするのであつて、吸煙状物(2)を通過してきた煙の中には有害成分はほとんど含まれていないものである。

上述のように本発明にあつては、ジアルケルアミノ2-ブテニールスルホネートとアルリルアミドとの混合物を主剤とするような吸染剤の水溶液を吸煙状物に含浸せしめたので、該水溶液の有

図1図は本発明の一実施例の断面図、図2図は同上のパッケージしたときの断面斜視図であり、(1)は筒状体、(2)は吸煙状物、(3)は開口端部、(4)は円筒状拔止材、(5)は吸口部である。

代理人 弁護士 石田 長七

第 1 図



第 2 図

